

ディベートにおける 論題・言葉の定義

論題:

高校の授業で古典を学ぶことに意義はあるか

●肯定派:

高校の授業で古典を学ぶことには意義がある

●否定派:

高校の授業で古典を学ぶことには意義がない

☆「古典」とは？

→日本で古くから読み継がれてきた作品。

漢文も含む。文章のジャンルは問わない。

また、「海外の古典作品」や「絵画や音楽など文章以外の作品」は考えないことにする。

☆「授業」とは？

→「古典を原文で読むもの」とする。

さらに言うと、教室という場所で、高校生という年齢の人が、同い年の子たちと一緒に、先生の指導のもとに、古典を原文で読むというもの。

☆肯定派は「原文で読む」ことを絶対とする。

「授業で原文を読まなくて良い、現代語訳だけでいい」というのは肯定派にはならない。

☆否定派は「原文を読む」ことには確実に反対。

原文を読むことに反対していれば、

「現代語訳を読むことは良い」

「現代語訳も原文も読まなくて良い」

はどちらも否定派としてok。

☆「意義がある」とは？

→「当人や社会に対して**ポジティブな効果があること**」
とする。程度は問わない。

☆「論理」とは？

→「与えられた前提から結論を導き出す**推論の過程**」
とする。

☆「必修・選択」という言葉は使わない。

「必修・選択」を考えると、

「他の科目との関係における古典の授業」
について議論することになる。

そうではなく古典の授業そのものについて、
そもそも意義があるのか？

どんな意義があるのか？

どんな古典の授業なら意義があるのか？
を問う。

論題: 高校の授業で古典を学ぶことに意義はあるか

「古典」とは？

→日本で古くから読み継がれてきた**作品**。

「授業」とは？

→古典を**原文**で読むもの。

「必修・選択」

という言葉は**使わない**。

「意義がある」とは？

→当人や社会に対して**ポジティブな効果**があること。

「論理」とは？

→与えられた前提から結論を導き出す**推論の過程**。

肯定派は「**原文で読む**」ことを絶対とする
否定派は「**原文を読む**」ことには確実に反対